

令和2年度保々中学校 学校アンケート結果と考察

内容	設問		平均評価	4(そう思う)と3(だいたいそう思う)の評価の割合(%)				考 察
	※ 設問に対する回答は、4(そう思う)、3(だいたいそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)の4段階で評価			1年生	2年生	3年生	全体	
確かな学力	生徒	学校の授業はわかりやすい。	3.3	94.0	94.5	90.6	93.0	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の評価の「学校の授業はわかりやすい」が今年度は昨年度の93.6%とほとんど変わらず93.0%で、すべての学年で90%を超え、平均評価は3.2から3.3になりました。「授業で学習したことは、将来の役に立つ」は95.2%から92.4%と下降しました。 保護者の評価は71.9%から79.4%と上昇しました。ただ、「1(そう思わない)」と「2(あまりそう思わない)」を合わせると20%近くあります。 生徒の評価は、全体としては高い数値となっていますが、「わかりにくい」と感じる生徒への手立ても含め、継続して授業改善に努めていく必要があります。今後もこれまで同様、学習の意義や必要性等を、全教育活動を通して生徒たちに考える機会をつくっていききたいと考えています。
	生徒	授業で学習したことは、将来の役に立つと思う。	3.4	96.1	87.0	94.3	92.4	
	保護者	お子さんは、学校の指導を通して中学生として必要な学力を身につけてきていると思う。	3.0				79.4	
	教師	学校は、生徒の学力の向上を目指して適切な指導を行い、成果をあげている。	3.0				85.7	
学習評価	生徒	先生の評価によって、勉強についての自分の長所や課題がわかったり、やる気が出たりする。	3.3	84.0	83.6	84.9	84.2	<ul style="list-style-type: none"> 評価の三機能は「生徒の自己学習力の向上」「外部への説明責任」「教師による指導と評価の一体化」です。このうち、「自己学習力の向上」にあたる生徒の評価は昨年度の88.2%から84.2%、「説明責任」にあたる保護者の評価は95.6%から93.8%と下降したものの、学習評価については、ここ数年、全学年で保護者から安定して高い評価が得られています。 一方、「指導と評価の一体化」にあたる教師の評価が90.5%から81.0%へと下降しました。教師自身が生徒の実態を把握し、「評価」することを通して、生徒のやる気を引き出し、生徒の「自己学習力」をつけていくことが重要であり、特に来年度から学習指導要領も新しくなり、各教科の評価観点も変更されるので、評価のあり方について研修を積み、一層の教材研究、授業研究の上になら、「指導と評価の一体化」を進めていきたいと考えています。
	保護者	学校(先生)は、お子さんの学力や学習状況、努力の様子等について保護者に適切な説明を行っていると思う。	3.3				93.8	
	教師	学校は、評価結果をもとに、指導をやり直したり、教材を工夫したりするなど、指導と評価の一体化に取り組み、成果をあげている。	2.9				81.0	
キャリア教育	生徒	自分にはよいところがあると思う。	3.0	74.5	76.4	84.9	78.6	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の評価割合は、すべて昨年度をやや下回る結果となりましたが傾向としては昨年度とほぼ同じ結果となりました。「自分にはよいところがあると思う」では昨年度80.0%から78.6%、「自分は、(まわりの人々から)自分の存在や思いが大切にされていると思う」は86.3%から82.8%、「自分は、将来の夢や目標をもっている」は78.0%から72.3%、「自分は、自分からあいさつしている」は92.0%から90.6%、「自分は、ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている」は87.7%から83.0%、「自分は、時間や期限を守り、授業を大切にしている」は89.8%から88.7%となりました。 保護者の平均評価は66.9%から79.2%と大きく上昇したものの、「1(そう思わない)」と「2(あまりそう思わない)」を合わせると依然として20%ほどあります。 一方、教師の評価は85.0%から76.2%と大きく下降しました。本校はこれまでこども園や小学校と連携し、「育ちのプログラム」をもとに合同研修会を開催し、取組を進めています。今年度はコロナ禍もあり、合同研修会を開催できず、各校園のみでの「キャリア教育」にとどまったこと、2年生の職場体験学習が実施できなかったことなどから、教師の評価が下降したと考えられます。キャリア教育は本校がこども園、小学校、地域とともに大切にしている取組です。本校では、ここ数年、キャリア教育を推進する上で基盤となる「あいさつ」「掃除」「時間」の指導に重点的に取り組み、教師も生徒も意識して生活できるようになってきています。今後もこれらの取組を大切にし、常に見直しを図りながら、継続して取り組んでいきたいと考えています。
	生徒	自分は、(まわりの人々から)自分の存在や思いが大切にされていると思う。	3.1	76.0	85.2	86.8	82.8	
	生徒	自分は、将来の夢や目標をもっている。	3.1	68.6	76.4	71.7	72.3	
	生徒	自分は、自分からあいさつしている。	3.4	92.2	92.7	86.8	90.6	
	生徒	自分は、ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている。	3.2	82.4	83.6	83.0	83.0	
	生徒	自分は、時間や期限を守り、授業を大切にしている。	3.3	94.1	78.2	94.3	88.7	
	保護者	お子さんは、学校の指導を通して将来の進路や今後の生き方について考えるようになってきていると思う。	3.0				79.2	
	教師	学校は、『育ちのプログラム』と関連させた重点・目標数値を学校づくりビジョンに定めて重点的に取り組み、成果をあげている。	2.9				76.2	
人権・道徳・特別支援教育	生徒	自分は、いじめや差別は絶対にいけないと思う。	3.8	94.1	96.4	98.1	96.2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒評価の「いじめや差別は絶対にいけないと思う」は昨年度98.9%から96.2%と下降したものの、ここ数年高い数値を示しており、本校生徒は前向きに人権のことを考えていると考えます。「学校へ行くのが楽しい」も89.3%から88.7%となりましたが、高い数値を維持しています。 学力についても人間性についても未熟な自分を自覚し、それを受け入れ将来に向けて自分の課題を克服し力強く生きていこうとする意欲が持てるようになっていくことが重要です。その実現に向けて、授業や学校行事、部活動等のあらゆる場面で生徒たちが学ぶ機会をつくっていく必要があると考えています。 保護者の平均評価は2つの質問に対して、87.0%⇒92.4%、83.3%⇒85.7%と上昇し、ここ数年、一定の評価を得られています。今後も保護者に向けてたよりやホームページ等を通じて、生徒たちの成長の様子を伝えていきたいと考えています。 教師評価は95.0%から85.7%と下降しました。これもコロナ禍で人権学習の授業公開ができなかったり、人権劇の取組が縮小されたりし、自分たちの指導に対して一定の手ごたえや充実感、生徒の変容などを実感できにくいことから下降したと考えられます。
	生徒	自分は、学校へ行くのが楽しい。	3.2	86.3	87.3	92.5	88.7	
	保護者	お子さんは、学校の指導を通して中学生として必要な人権感覚や道徳性を身につけてきていると思う。	3.2				92.4	
	保護者	学校では、生徒ひとりひとりが、自分の力を発揮して学習や様々な活動に参加していると思う。	3.2				92.4	
	教師	学校は、生徒の人権感覚や道徳的心情、実践力を育てるために適切な指導を行い、成果をあげている。	3.1				85.7	

内容	設問 ※ 設問に対する回答は、4（そう思う）、3（だいたいそう思う）、2（あまりそう思わない）、1（そう思わない）の4段階で評価	平均評価	4（そう思う）と3（だいたいそう思う）の評価の割合（%）				考 察	
			1年生	2年生	3年生	全体		
規律ある生活習慣・生徒指導	生徒	自分は、学校のルールやマナーを守って生活することを心がけている。	3.5	94.0	92.7	96.2	94.3	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の評価は昨年度96.3%から94.3%、保護者の評価は86.3%から90.2%、教師の評価は85.7%から81.8%となり、大きな変化はなく、安定した評価となっています。 学校においては、ここ数年、ほとんどの生徒が落ち着いて学校生活、家庭生活を送っており、大きな問題は出ていません。しかし、多くの生徒がルールやマナーを守って生活してはいるものの、その意義を深く理解せずに受動的に生活している姿も多くみられます。特に昨年度から事あるごとにその点に着目し、生徒たちに向けて、将来、社会で生きてはたらく力をつけるために取り組んでいくことの大切さや必要性を投げかけてきており、少しずつではありますが、生徒がそのことを意識して生活するように変化がみられてきました。そのことがこの結果に表れてきていると考えられます。今後も「あいさつ」「掃除」「時間」に重点的に取り組み、生徒指導の面でも成果が得られるよう、取組を継続していきたいと考えています。
	保護者	お子さんは、学校の指導を通して中学生として必要な生活習慣やルール・マナーを身につけてきていると思う。	3.2				90.2	
	教師	学校は、生徒の基本的な生活習慣の確立や規範意識・自立性の育成に向けて適切な指導を行い、成果をあげている。	3.0				81.8	
学校行事・学級活動	生徒	自分は、班・学級活動や生徒会・委員会活動、体育祭や文化祭などの学校行事に積極的に取り組んでいる。	3.5	88.2	94.5	94.3	92.5	<ul style="list-style-type: none"> 生徒評価が昨年度90.4%から92.5%、保護者評価が91.8%から93.9%と、今年度も生徒、保護者の各平均評価は安定して高く評価されています。ただ今年度はコロナ禍であることから、多くの行事が縮小され、中には中止を余儀なくされました。生徒たちや保護者の皆さんへは、その都度、ていねいに説明し、気持ちの切り替えや前向きに受け止め、今後に活かしていくことの大切さを話してきました。結果、今年度も昨年度までと変わらず高評価となったと考えています。 また、教師の評価は85.7%から81.8%と下降しており、高い評価ではあるものの、これまでに比べ、生徒たちに体育祭や文化祭、修学旅行や自然教室等の体験的な学習を十分にさせてあげられなかったこと等から、そういった活動を通して生徒たちに十分に力をつけれなかったという思いが評価を下げた一つの要因になったと考えられます。今後も、コロナ禍が続く中で、それぞれの活動の内容の精選と充実を進めつつ、生徒たちの気持ちも大切にしながら、自主性や主体性を育てる指導を継続し、よりよいものを目指していく必要があると考えています。
	保護者	お子さんは、学級・生徒会活動や学校行事を通して友だちとの望ましい関係を深めたり、自主性、協力性、公共心などを身につけてきたりしていると思う。	3.4				93.9	
	教師	学校は、学級・生徒会活動、学校行事等を通して仲間づくりや生徒の自主性、協力性、公共心などを育成するために適切な指導を行い、成果をあげている。	3.0				81.8	
部活動	生徒	自分は、学校の部活動に積極的に参加している。	3.5	90.2	92.5	94.1	92.3	<ul style="list-style-type: none"> 生徒評価は昨年度88.6%から92.3%、保護者評価は87.5%から90.8%と、ともに上昇し、安定して高く評価されており、多くの生徒が意欲的に部活動に取り組んでいることが伺われます。 昨年度課題であった教師の評価も、66.7%から85.7%と回復しました。一昨年からスタートした部活動ガイドラインや教師の総勤務時間削減の動き等も部活動のあり方を見直すこと等を通して、少ない時間の中で充実した活動が定着しつつあると考えられます。また、今年度コロナ禍により、これまで以上に部活動ができる喜びやありがたさを感じながら部活動ができたことも活動の充実につながった一つの要因と考えています。今後も、部活動のあり方を見直していく中で、学校として仕事の精選や教員の仕事分担の見直し等も行いつつ、充実した部活動運営に努めていきたいと考えています。
	保護者	お子さんは、学校の部活動を通して自主性や協力性、責任感や連帯感、ねばり強さなどを身につけていると思う。	3.3				90.8	
	教師	学校は、部活動を通して自主性や協力性、責任感や連帯感、ねばり強さなどを育成するために適切な指導を行い、成果をあげている。	2.9				85.7	
教育相談	生徒	学校には、自分の気持ちや思いを聞いてくれたり、悩みや心配ごとなどを相談できたりする先生やカウンセラーさんがいるので安心できる。	3.1	70.6	83.6	84.9	79.9	<ul style="list-style-type: none"> 生徒評価は昨年度84.3%から79.9%、教師の評価は95.2%から90.9%と下降し、保護者評価は86.7%から90.8%と上昇しました。特に1年生の評価が70.6%と低く、課題と考えます。1年生は入学してすぐに臨時休校となり、中学校生活になじむことなく約1か月間を過ごし、行事や部活動、その他の活動も制限されたりする中で、教師との関係づくりがなかなかできなかったことも評価が低くなった一つの要因と考えます。ただ、全学年で考えても、個々に見ると「あまりそう思わない」「そう思わない」とする割合が依然として20%近くあり、今後も相談機会の拡充や効果的な相談に向けた改善が必要です。日頃から各学年とも担任等があいさつを含めて共感的姿勢による声かけや生徒との会話の機会を増やす努力をしてはいるものの、安心して相談できないと感じる生徒は存在しており、今後も教育相談体制や相談のあり方等の検討をし、少しでも生徒が相談しやすい状況をつくっていく必要があると考えています。
	保護者	学校（先生）は、お子さんの思いや悩みなどを聞き取ったり、相談したりするしくみや雰囲気や適切に整えていると思う。	3.3				90.8	
	教師	学校は、生徒理解のために適切な教育相談を行い、成果をあげている。	3.3				90.9	
危機管理・安全な生活	生徒	自分は、病気やけが、災害や事故、犯罪の被害などにあわないようにするため、日頃から健康や安全に気をつけて学校生活を送っている。	3.4	88.2	92.7	92.5	91.2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒評価は昨年度94.1%から91.2%、保護者評価は96.3%から98.5%、教師評価は90.0%から81.8%と、それぞれ平均評価は安定的に高い数値を示しています。これは年3回実施する避難訓練や、生徒や保護者に日常的な病気やけが、事故発生時の対処等が適切に取り組まれていると感じてもらっているからだと考えています。今年度はコロナ禍の中、予定の変更や行事の縮小・中止等、年間を通してていねいに生徒や保護者に説明してきました。そのことも高評価の一つの要因であったと考えています。ただ、急な変更等、生徒や保護者にうまく伝えきれないこともあり、教師の評価が下降した要因となりました。今後も日常的な危機管理をはじめ、防災教育の充実を図っていく必要があります。また今年度中止となった各地区の自主防災訓練への中学生の参加を、地域の一人としての自覚を促す指導と合わせて充実させていく工夫をしていきたいと考えています。
	保護者	学校（先生）は、健康で安全・安心な学校づくりに努めていると思う。	3.5				98.5	
	教師	学校は、生徒の健康で安全な生活のために、必要な組織や体制を整えるとともに適切な指導や訓練等を行い、成果をあげている。	3.0				81.8	
地域との連携	生徒	自分は、保々地区が好きだ。	3.5	94.1	90.9	92.5	92.5	<ul style="list-style-type: none"> 生徒評価は昨年度90.3%から92.5%、保護者評価は88.1%から97.7%、教師評価は100%から95.5%と安定して高い数値を示しています。今年度は学校ホームページの日常的な更新を心掛けました。また、コロナ禍に関する情報や生徒たちの日常的な授業や活動の様子も学校だよりや学年通信、ホームページ、すぐメール等でていねいに発信してきたことが生徒や保護者の高評価につながったと考えています。今年度は地域のほとんどの行事が中止となり、生徒が地域に向かう機会はほとんどありませんでしたが、今後も地域との関わりを大切にすることやコミュニティ・スクールも活用しながら、生徒の「自分は、保々地区が好きだ」という意識を持たせていきたいと考えています。
	保護者	通信・たより・ホームページ、電話連絡、家庭訪問、オープンデー、保護者懇談会などによって学校やお子さんの様子がわかりやすい。	3.4				97.7	
	教師	学校は、保護者や地域に学校や子どもの様子を知らせるために適切な取り組みを行い、成果をあげている。	3.3				95.5	